

保健だより

令和6年11月1日
伊佐農林高校
保健室

11月8日はいい歯の日です！

歯周病を予防しよう

大人になるにつれ、毎日の習慣である歯みがきを指導される機会は減っていきます。むし歯になっていないから大丈夫と思っていても、歯の内部と歯肉が炎症を起こし「歯周病」になっているかもしれません。歯周病予防のためには自分に合った歯垢除去の方法を身につけることが大切です。

歯周病は自覚症状が少ない

歯周病は初期段階では痛みや腫れがないため、気づかないうちに進行しやすい病気です。そのため、日本人の30代では8割が歯周病にかかっているか、その予備軍になっているにも関わらずほとんどの人が気付かず放置しているといわれています。

こんな人は歯周病かも？



歯周病の原因になる歯周病菌は放っておくと歯肉から血管を通じて全身に運ばれ、糖尿病や心筋梗塞などの深刻な病気を引き起こす原因になってしまいます。



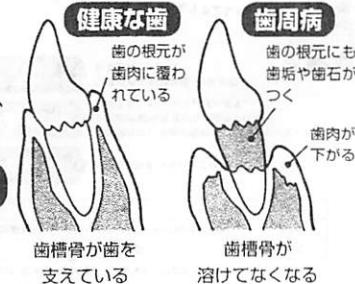
歯周病が進行すると…

歯肉の中で歯を支えている歯槽骨が炎症を起こすと、歯肉だけでなく歯にも影響が出てきます。

歯肉や歯の強い痛み

歯並びが悪くなる

歯がぐらぐらする、抜けてしまう



自分に合った plaqueコントロールをしよう

歯周病の原因は、歯や歯肉に付着する「plaque（歯垢）」が原因です。plaqueの除去方法は歯ブラシによる歯みがきが基本ですが、歯の状態によって適した処置は変わってきます。自分に合ったplaqueコントロールの方法がわからないときは、予防歯科を受診して指導を受けても良いでしょう。

ブラッシング以外のplaqueコントロールの例

フロッシング

歯にものが挟まりやすい場合は、デンタルフロス（糸ようじ）を使用すると効果的です。



マウスウォッシュ

ブラッシング後の細かい
みがき残しを
洗い流したり、
口の中を殺菌
する効果が
あります。



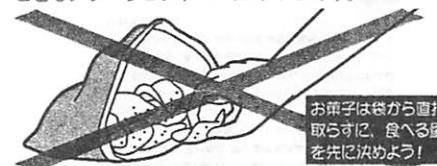
スケーリング

plaqueが歯石になっている場合は、歯科で専用の器具を使い、歯石を除去する必要があります。



だらだら食事をしない

歯の健康のために、間食などの生活習慣を変えることもplaqueコントロールの1つです。



保健室からお知らせ

夏休み前に歯科の治療勧告書を受け取った人の中で、まだ治療に行っていた人へ 再度治療勧告書を配布します。できるだけ早く治療を行い、結果報告書を保健室まで提出してください。



